ふらふらペインティングの旅・北海道　　2001 年 8 月

3 日：JR 郡上八幡駅前無料駐車場で目覚めた。第一日目の夜、自転車を降ろして後部座席のシートを全部倒してベッドを作った。なかなか快適。昨夜は夕方５時ごろからドシャ降りの雨、どこで寝るかとうろうろしてここを見つけた。もう真っ暗だったが雨はやんでいた。ベンチのある東屋へコンロとコフェッルを持ち込んでビールと焼酎で乾杯。ジョギング、朝飯、自転車で街の探索。無理して自転車乗せたが正解。郡上八幡は昔から名前は知っていたが、小京都そのままの感。水が豊富で大きい川、小さい川、いたる所から湧き水。城が在るというが１５分ぐらい登らねばならずやめた。風景の画、今までは出来上がった日の日付とサインを書いたが、今日からは描き始めた日の日付を入れることすると決めた。旅に出て新しい土地に足を踏み入れた日付が画に記されている方が絶対いい。この決定、水彩画はうまくいったが、タブロウは、完成日の日付となった。地名は大きく入れた。

4 日：御母衣湖（みぶろこ）　白山麓の御母衣湖畔、荘川桜が在る公園の駐車場に車を停めて寝た。昼間、ダム上部のコンクリートに車を停めて、水彩２．３枚広げ描き始めたが日照りがすごく暑い。沢の在る空き地まで戻り画を描いて、食事、川で身体を洗いビールを呑んで昼寝した。黄昏、桜の横にコンロを出して一杯呑んで晩飯。ダムサイトに我がボンゴ君より新しい車が放置してある。しかもボンゴ君よりずっといいタイヤ。余裕があればいただいたのに。これは泥棒か。

5 日：朝、ランニングで山に入ったが熊でも出たらとヒヤヒヤ。北海道まで友人の吉谷氏と同行するので、JR 富山駅へ５時に迎えに行かねば。五箇山で散歩。この辺りよほど大雪が降るのか家の周りにコンクリートのプールが在る。屋根に梯子二階にベランダ、雪対策かな。平村のダムサイトで食事とお絵かき、水彩２枚。新潟港に着いたのは夜９時ごろ。朝５時、テントの中で目覚めた。この日から又一人になるまでの何日間はテント生活。朝 10：30 船に乗り込んで早々にビール、焼酎で酒盛り。盛夏の 3 日間風呂に入ってないが、船の風呂は２時から。冷房のおかげで快適。

6 日：５日朝 4：30 小樽港到着。港に車を停めてキャンバス張り。20、30 号枠を３枚づつ、キャンバスは一巻き持ってきた。小樽港の絵を描いて町に向かってランニング。小樽は一昔前まで北海道最大の町だったそうだが、今は「みんな札幌に行ってしまった」と地元の魚釣りのおじさん。明治、大正と北海道の中心地、エキゾチックな石造りの倉庫や事務所の建物群。早朝なので人は居なかったが、何日か後にここへ来た時は観光客だらけ、あわてて逃げ帰った。この時スケッチしておくのだったと後悔しきり。車まで帰ってきたらなんと自衛隊の軍艦が停まっていた。同行の吉谷君、洞爺湖付近に土地を持っている。２０歳代に５万円で買ったその土地を是非見てみたいというのが彼の目的。２．３時間で現場に着いたが風景は変わっていて、以前来たことがあるらしいがその土地が何処か分からない。それで市役所へ行って土地台帳を見せてもらう。土地は在ったが、先程のりっぱな舗装道路から１キロ程の山の中。勿論進入道路は無い。「それひょっとしてサギ？」「役所の立場としてはなんとも言えませんが、何万坪の土地を何百にも分けて、都会の人に売りつけるサギ商法が当時流行ったようです」その日は役所のお姉さんの紹介で、豊浦市のキャンプ場へ。

8 日：土地の話はすっかり萎んで、洞爺湖畔へ。まだまだ煙モクモクの火口。中々の迫力。吉谷君の姉さん宅に泊めてもらう。朝 10 時に石狩から宗谷へと走り出す。この有名な石狩市、でも何もない。なんで？みなと付近に堰が在りその螺旋階段の絵を描く。後日原田君の案内で石狩川河口へ行った。広々した河口。彼がこの風景を指して「広漠として美しくはないが、素晴らしい」と。どんどん北上、海岸線が素晴らしい。海、何処までも続く丘、草、アメリカ大陸を走っているようだ。道路、トンネル、港湾の土木工事をどんどんやっている。北海道、牧場の牛達は少ない、企業は無い、土木工事だけが仕事？工事のガードマンの兄ちゃん、愛想のいいこと。

9 日：増毛の町のオートキャンプ場。利用者のほとんどが若者か子供連れの親子。蚊帳風前室と寝室テントの組み合わせ。電気の来ているブースも在る。値段は大人二人と車で 5.000 円ぐらい。おっさん二人はちと照れくさいが、俺画描く。テントひとつ張って俺が寝て吉谷君は車のベッド。朝増毛港へ。中々いい所発見と、自転車に絵の道具を積んでもう一度増毛港へ。島根に行った時見たイカ釣り舟と同じ大きさのも在るが、その２．３倍もあるでっかいイカ釣り船。電球の数も多い。さぞかし明るかろうが、化石燃料のおばけ？イカも高いはず、廃船あり、ドックの船あり、いいな、いいな。

11 日：留萌（るもい）から内陸部へ。旭川手前の深川市のオートキャンプ場。真夏というのに寒い。その寒さで吉谷君の咳ますますややこしく大丈夫かな？天気は曇り空で、俺もフリーズのジャンパー。翌日キャンプ場付きの温泉。陽は燦燦と暑さが戻ってきた。旭川に出てそのまま富良野へ。後日知ったが、旭川と富良野の間の美瑛という町が綺麗だ。お花畑もジャガイモ畑も地球の起伏に沿ってなだらかに曲がり、ポコポコ出たりへこんだり。草あり、土あり、森あり、そんな草原の中に刈った草を集めて丸め白い布で包んだでっかいボールが点在している。半病人の吉谷君もさすがに冬の下着を脱いで、咳も止まり直ったとうれしそう。この有名な花の街富良野は人でいっぱい。この頃までが花の最盛期で、紫、アカ、ピンク、黄、白､青と畝に植えられた花が織物のように曲がった地面を這っているホント綺麗。何日かしてここに帰ってきた時には花の姿は無く、あの見事なお花畑はただの枯草になっていた。今年の７月は雨にたたられて花は例年のように良くなかったとは地元の人の弁。今年の７月の北海道は本州並みの梅雨空だったらしい。でも大阪は梅雨らしき雨も少なく、不快な暑さの日々だったが。

12 日：朝７時富良野から一路宗谷へ。アトから知ったが宗谷岬は日本最北端の地。隣の町が稚内。稚内に在る岬は「ノシャップ岬」「ノサップ岬」は北方四島で有名な根室半島に在る。サロベツ原野で休憩。地図で上（北）が宗谷と稚内、左側(西)がサロベツ、右側（東）がオホーツク。サロベツとオホーツクのこの２箇所、北海道で一番のお気に入りだが、今は長距離運転で早く寝場所を見つけたいとあせるばかり。側の兜沼オートキャンプ場が今夜の宿。夜になるとやはり冷える。しかも沼の側、朝起きるとテントも車も出していた絵も一面霜だらけ。どうも北海道は湿気の多い土地柄？ 宗谷岬を観光して、道路沿にあった宗谷小学校の校庭の軒先を借りて画を描かせてもらう。夕方宗谷小学校の先生がやって来ておしゃべり。先生、隣の利尻島の出身で俺より 2.3 年下の文学おじさん。ジュースをご馳走になって画やら本の話。この小学校 100 年以上経っている。北海道には 100 年以上の学校がたくさん在った。ただ生徒数は 18 人で先生が 8 人だそうだ。夕方稚内港をふらっと周ってびっくり。ロシアの船がわんさか在る、なんとその汚い事、赤錆だらけの船は俺の子供時代の風景、この汚さに感激、日本なら廃船だ。以後北海道でたくさんのロシア船を見るが、絵にしてみるとそのすさまじさは出せない。空港の近所のキャンプ場で宿泊。

14 日：ゆっくり眠れた。稚内空港近所の公園で画を描きだして夕方になったのでそこで晩飯、一杯呑んでいい気持ちで寝てしまった。昨日大阪の友人から携帯電話。相当暑いようだが、相変わらずジャンパーが離せない涼しさ。大事件発生！！財布が無い。尻ポケットにも車のボックスにも何処にも無い。車の荷物を全部降ろして調べた。落とした？６．５万円ぐらいと運転免許証、銀行カード、名刺、茨木市図書館カード。全部無くなった。警察へ行っても運転免許証無しでは運転も許可しないだろうし、誰に電話しても金を手に入れる方法は無し、この時点で旅の中止！！２時間ほどもがき苦しみ呆然。まさかとは思ったが、もうひとつの蓋付きのボックスを開けてびっくり、財布が在った。おおげさながら本当にこの時も神に感謝した。７．８年前甲斐駒ケ岳で死にそうになったあの朝以来、心の底から感謝した。午前中は昨日見つけた稚内港で、感激のロシア船をキャンバス広げてスケッチ。稚内の公園で車を停めると隣の車で人が寝ている。おじさん柴犬を連れて散歩から戻ってきた。鹿児島から北海道までの陸路、夫婦と柴犬で車に寝泊りして旅しているとか。北海道では自転車、オートバイ、俺と同じ車で寝泊りの旅行者も多い。びっくりするのは、車しか居ない北海道の道路を、背をかがめて真っ黒に日焼けしたおっさんが、80 リッターぐらいのでっかいリュックを担いで歩いている。二人見たが、発見するとぎょっとする。自転車で走っているとオートバイの連中が手を上げてくれる。ランニングしているとオートバイも自転車もエールを贈ってくれる。うれしいね。

15 日：朝４：３０起床。昔は朝の４時とか５時に起きる婆さんはどんな奴だと思っていたけど、寝てられないのも困ったもの。自転車にキャンバス乗せて JR 兜沼駅近辺の牛小屋,サイロの在る巨大農家、牛達も描いてサロベツの日本海を見ておこうと出発。稚咲港と看板を左に曲がって「オホーツクへ出る前にちょっと寄って」と誰も居ない港。今にも降りそうだが、少し明るくなってきたので画を広げる。さっき描いた牛小屋と牛の画、漁師のおじさん一人。「船の影で画、描いています」と話し掛ける。「今日は雨降らない。午前中はこんな感じだ、昼から晴れる。雲見りゃわかる」　さすが漁師さん。１１時過ぎごろから晴れてきた。快晴ではないので一日中ジャンパー。機嫌よくキャンバス広げてあれやこれやと画。もう一人の漁師のおじいさん「字書いてくれん」「字？」なんと魚船の船名を書いてくれと。「できるかな」と見に行くと「北鴎丸」という船名の鴎の字が消えかかっている。これなら出きると白と黒の絵の具、筆、布を取ってきて書いた。「うわあ～いい！」と喜んでくれ「こっちも」と左舷。終わるとこっちもと右舷。なるほど船はみんな左右と後部の３箇所に船名が書いてある。漁師さん大いに喜んでくれた。「カニ食べる？」「ビール？」「カニ食べます」「ビールは夕方です」「まゆっくりしていって」「はあ」　カニかビール当るかなと期待しつつも画。今日は昼間のランニング。日本海沿いを走る。北海道の道、舗装は立派でまっすぐ、人が歩いているのを見たこともない。車は制限速度の３０キロプラス。相変わらずオートバイと自転車からエール。でっかいリュック担いだ中年の真っ黒で小柄な人が歩いてきた。異形。昼過ぎにテントを広げてもう寝ている。３時ごろ北鴎丸のおじさんでっかい凍ったカニの足とカンビール６本もってやってきて、「まあゆっくりな」と。まずビール。旨い。１時間もするとカニが融けだしこれまた旨い。さっさと画をしまって一生懸命カニを食ってビールを呑んで次に焼酎、旨い。カニの足だけで腹いっぱい。最高に旨かった。

17 日：稚咲港で昼過ぎまで画を描いて日本海側から反対側へ、これが本州なら太平洋側なのだがここは北海道の北、いよいよオホーツク。やってきたのは枝幸（えさし）。そこに神威岬（カムイ）公園が在り、何日間かお世話になる。後から知ったが縄文時代の目梨泊遺跡がすぐそこ。流氷が一番早くやってくる地だそうだ。途中で「乗せて」とヒッチハイクの二人。「どこまででもいいです」と。乗せると一人は茨木高校出身で、娘より１才下のようだ。おりしも茨木高校前の堀さんから電話。「大丈夫か？」堀さん何度も電話くれて「大丈夫か？」ありがたい。今日は朝から霧で曇り空、寒い。昨日サロベツの漁師さんが「明日から寒くなる。寒くなると皆あわてて北海道を離れていく」と。公園を掃除にきたお姉さん「オホーツクは一夜にして冬が来る。雪が降るかもね」「え？！」いくらなんでも８月に平地で雪はないでしょう。からかわれたかな。でもストーブを付ける日はあるらしいこの神威岬、魚釣りのメッカだそうで、たらい桶ぐらいのタモ網を持った釣り人で駐車場はいっぱい。人は多いが画には無関心。静かに描かせてくれる。でもなかなか釣れないアラスカマス、枝幸の町のスーパーで 300 円だそうだ。大阪に住んでいると、古代は、奈良時代、平安時代、その前の古墳時代、近所の東奈良遺跡が弥生時代。それ以前の縄文時代は信州八ヶ岳の博物館で見るぐらい。今回の旅で、東北、北海道の縄文時代を知って感激。この北海道。松前藩が江差で活躍するまではアイヌ人が狩猟生活と口承文化。つい最近まで縄文弥生文化があったのかな。それとシベリアからと渡来人の文化、但しモンゴロイドらしい。知らなかった異文化がここに在った。東北で会った先生「日本は天皇制を大事にするから、大和以外の縄文や異国の文化はもうひとつ大事にされないという学会内の雰囲気」だとか、そんなものかな。日本のこの地に縄文、石器文化が在ったなんて素晴らしい。それが、我々今の日本人の先祖であるとか無いとか関係ないよね。大きな声では言わないが俺自身、俺の先祖の事大切にはしていません。

19 日：神威岬、問牧（といまき）、千畳岩、車や自転車で移動して画を描いている。昨夜は寒かった。冬用の下着を着てシラフのジッパーを絞めてまだ寒い。朝起きたら身体がだるい。下痢。昨日肉食った、焼酎も呑んだ、どっちが悪いのか？港で牛小屋と船を描く、だるい、椅子に座って仕事。友人の画材屋の奥山さん「スケッチに行った時は、こっちから話し掛けて、画描かせてください」とお願いすると、「向こうの人は親切に色々話して、教えてくれる」と言っていたのを実践して、なるべくこちらから話し掛けて入ると、地元の人とのコミュニケーションがうまくいく。今日会ったおじさん「オホーツクは８月でもストーブ焚く日がある。私らは半袖で大丈夫だが寒いでしょう」と言われてみると俺はフリーズのジャンパーをきている。町に行ってスーパーマーケットに入ると魚の安い事。７０.

８０センチぐらいの傷ありのでっかい鮭１５００円。ソイ３匹３００円。買いたいけど多すぎる。神威岬で皆が釣っていたアラスカマスはたったの３００円。これを見たらおっさん達怒るかな。北海道は湿度が高いのでは？毎日洗濯するが、渇きが鈍い。洗濯は溜まると大変なのでランニングの後はシャツ、パンツ、タオルを洗うようにしている。水彩を描いていると紙が湿っているようだし絵の具の乾きも遅い。昼からタブロー（アクリル画）を描く。白の絵の具が無くなりだした。この旅に出る前出来そこなったタブローを白の絵の具で潰し、色を入れた。「え？お！うまくいくじゃないですか」それを思い出して白で潰すとなかなかいい。４年前、アメリカでペインティングの旅以来のタブローの勝ち、水彩に勝った！うれしい、うれしい！！でも白の絵の具が無い。北海道では買えまい。ただ残念な事、俺の絵には皆さん全く関心を示してくれない。もうちょっと見てくださいよ。よかったら買ってくださいよ。

20 日：一週間ぶり夏が戻って来て暑い。岬をぐるっと周ってランニング。画になるいい所が在るかなと、自転車にキャンバス乗せて岬の先へ。岬の根元にトンネルが在りほとんどの車はそこを通る。トンネルが出きるまでの元のこの道、夏の今は景色もいいし快適だが冬は吹雪、大雪で通行止めとか、恐らく大変な道だったのだろう。そのトンネル工事で縄文の遺跡が発掘されたとか。朝走っていると、たくさんの動物の死骸。7.8 センチぐらいのモグラのようなネズミ。シマヘビにアオダイショウに、２０センチぐらいの小さいヘビ。カラスと鴎の死骸はよく見る。走っている道の一段上に昔の道の名残が残っている。明治～昭和 30.40 年代まで使っていた道のあとか。所々に石垣や鉄の杭が残っていて廃道という感じ。この道の画も描いた。周りの山々は緑が美しい。針葉樹が生い茂っている場所は人の手で植林がなされた所、広葉樹林の山は自然のまま。9.10 月にもなると初冠雪があり白一色の世界。年が明けるとオホーツクから流氷がやって来るのだろう。こちらの人は「冬にいらっしゃい」と皆が言う。「スタッドレスタイヤに履き替えて」でも寒いだろうなあ。それと白一色の世界、絵にはならんなあ。岬に道路標識の吹流しがある。よほど吹雪がきついのだろう。それも画も描いた。

22 日：　オホーツクから網走まで一気に走る。台風が来ているとかで雲がぐるぐる動いている。網走の町に着いたら風呂、食料、ビールと疲れた頭はそれだけ。JR 網走駅を見つけたが車を停める所も無い。汚い銭湯を見つけて風呂。港を塒に決めて乾杯、食事。サロベツとオホーツクが良すぎたのか網走の人の多さにはややうんざり。朝８時、自転車で紙とエンピツを持って散策。網走刑務所では看守の出勤時間で三々五々正門に吸い込まれていくが、みな愛想が悪い。北海道の人は朝会えば挨拶してくれたけどここは都会なんかそれとも看守の仕事上へらへらしてはいられないのかな。ラジオを聞いていると台風は北海道のほうへやって来て、昼頃から雨も降り出すという。雨が降るまでと、港で水彩画を広げ。コークスの山の側に車を停めて飯を食いながらの画。網走の刑務所、船、丘の上の市街等を描いていると、緑色のでっかいトレーラーが次々とやって来た。次にやって来た黄色いショベルカー「え？何をする、何をする」コークスを掬って緑色のトレーラーに次々と積みだした。子供のころコークスで風呂を沸かしていた、父親の会社には山積されていた。「コークスはそれ以来だなあ」と干渉にふけっている間もなく、コークスの粉塵が白い画用紙の上に振りまかれていく。そうこうしているうちに、トレーラーの団体は隊列を組んで行ってしまった。ショベルカーも行ってしまった。ぽつぽつ雨がきた。

24 日：昨日は雨の中、庇のある駐車場で網走の水彩画の続きを描いたが、薄暗い雨の中ではうまくはいかない。それらの水彩画を水洗いして再度挑戦。雨の日はどうも良くないなとジョギングしたが、人も車もいない山の中の道「どうぞ熊さん出ませんように」と鈴をあらん限りに鳴らして、ヒヤヒヤラン。お陽さん！やっと晴れた。たった二日間の雨だけど。昨日の夕方芦別温泉の公園に来た、水道とトイレがある、お陽さんを見るのはうれしい。車での旅はテントやオートバイの人たちに比べると条件がいい。今回の箱型の車、荷物は積めるし無理すれば二人でも手足を伸ばして眠れる。キャンピングカーが一番いいけど旅以外には使えない。RV 車は狭そう。しかし今回のような旅では家が無いと雨の日は身体の持って行きようが無い次からは雨対策を考えねば。昨日ヒヤヒヤランで見付けたカナディアンワールドという今はやっていないイベント会場の駐車場へ行く。砂利敷きの駐車場に３本の電灯ポールが立っている。そこに車をとめてブルーシートを車とポールの間に渡して日よけの庇。北海道といえども夏の日差しはきつい。

ましてこの日からしばらくはオホーツクに比べて不快な暑さ。二日間雨が降る庇の下で描いた水彩画は何となく薄暗い。やはり太陽だ、快晴だ、蒼い空だ、涼しい風だ、爽やかな風だ。画が気持ちよく描ける満足。横の道は立派にアスファルト舗装されているが通交量は１時間に１台も通らない。山々に囲まれて木々の緑は力強く空はあくまであっけらかん。夕方自転車でスケッチと買い物。晴れた日は時間の経つのが早い。雨はその反対で時間を持て余して何をしようかと苦労する。この芦別の街、感動するものが何も無い。三日間もお世話になるのだが、何か一枚ぐらい画に描きたいとうろうろしたが、駅舎と黄色の橋ぐらい。“星の降る里”が芦別のキャッチフレーズであちこちに書いてあるが、星なんて北海道なら何処でもあるし・・やはり何も無い街？ゴメン。

25 日：土曜日夕方の芦別温泉のキャンプ場。一昨日は俺一人。昨夜はオートバイ 2 台と車のアベック 2 人。それが今日は何処から涌いてきたのか１００人ぐらいは居るのか、数日前の賑やか華やかなキャンプ地を思わせる。８月最後の週末だ。昨日は暑かった。大阪のようだなと思ったら大阪は３６度、ここ芦別は北海道で一番暑かったらしいが、せいぜい３０度を超えたぐらい。すぐ側の芦別温泉に入浴。昨日知り合った JR 富良野駅前で喫茶店をやっているおじさんも入っている。彼に富良野の地図を貰った。もう一度富良野で花やらジャガイモ畑を描きに行こうかと迷っていたが、明日は富良野へスケッチに行くぞと決める。彼「綺麗なのは隣の中富良野、美瑛だよ」と。朝起きて富良野の町へ出発。喫茶店のおじさんの店＜我夢舎楽＞に寄ってコーヒーを飲んで中富良野：美瑛へ。半月前来た時には花畑満開だったが今はほとんどが枯草となっている、相変わらずの人出。富良野、小樽は北海道での人気一番の観光地かな。所々にある花畑、赤、ピンク、黄、白、青、紫、綺麗だ。色の事なら俺の画も負けてないが、それよりもっと好きな所がジャガイモ畑。中富良野：美瑛あたりの地形、丘がポコポコ盛り上がった曲面の大地。そこに、草あり、土あり、芋あり、所々に木あり、この景色北海道独特のいい景色だなあ。ジャガイモ畑に惹かれて山の上へと走っていく。地図を見るとここから芦別へ帰れる道と進んだらなんとジャリ道。すぐ終わるだろうと思ったのがあまい。ワ！ワ！ワ！少年時代の鳥飼村。淀川の土手の上のジャリ敷き道、ボンネットバスがもうもうと砂埃を撒き上げて走っていたのを思いだす。２０．３０キロのスピードで走ってもさら～さら～と横に流される。結局３０分で帰れるところ３時間ほどかかったが、この山の中のジャリ道は楽しかった。4WD を使って走ったが残念ながら普通走行と 4WD 走行の違いは分からない。ホンマに俺、情けないが違いの分からん男だね。

26 日：札幌、原田氏の家に泊めてもらう。カニ、キンキ、しおから、キュウリ、とまと、さやえんどう、ビール。石狩温泉にも連れて行ってもらった。彼の奥さん、北海道の人、炭鉱町で育ち北大の看護学校で北大生だった原田氏と出合ったとか。翌日は朝から雨。札幌の町を自転車でふらふらしたが雨では仕方が無い。10時ごろ出発。２０日ぶりに小樽の港。雨の中自転車で走ったが、人人人、観光客でいっぱい、スケッチどころではない。パソコンが動けばデジタルカメラを写せるのにと残念。島牧の道の駅で泊まる。道の駅の存在は前から知っていたがみやげ物屋と思っていたので近づかなかった。芦別で、おじさんおじさんと話し掛けてくれたオートバイのアンちゃん「旅をしていると、道の駅はいいよ。ありがたいよ。水洗トイレ完備で、夜は屋根付きベンチで眠れるし、駐車もできる。新鮮野菜が安いし」画を描くには人が多すぎてだめだけど、ただ移動する旅なら道の駅はたしかにいい。２８日最後の北海道島牧。朝起きて山に方に向かってジョギング、川沿いの寂しい道。熊は内陸部より鮭を食いに海の近辺が多いと聞いた、鈴をチャリチャリ鳴らしながら走っていると本格的に雨が降ってきた。服も靴もずぶ濡れ。ポケットの携帯電話もやばいなと思いつつもビニール袋もなし仕様が無い。案の定携帯電話のスイッチが入らない。曇り空の中、函館まで来てしまう。18：30 発函館より大間（青森）で１時間半。大間港について港に車を停めていっぱい飲んで寝る。新潟・小樽間１８０００円。この１時間半１２０００円。フェリーの値段は距離、時間に関係ないのか。舞鶴・小樽間 25.000 円が一番安くて早い。津軽海峡イカ釣り船の漁り火が煌々。船が 10、20 隻も在ってそれぞれの船の漁り火、明るい事。あの安いイカは油のお化けか。

29 日：大間。石川啄木が来たそうで彼の句碑が本州最北端の岬に立っている。とう浅の海らしく灯台は向こうの岩の上に在る。

東海の小島の磯の白砂に　　われなきぬれて　　蟹とたわむる

句碑の下に東海とはこの地のことだと書いてある。２０歳の天才が嘆き悲しんで泣いている様は絵になるが、５０歳台のおっさんが嘆き悲しんで泣いても汚いだけ。ましてホームレスがポーズを作っても見向きもしまい。人が居ない北海道の綺麗な道から、狭くて車が多く家ばっかりが続く本州の道。青森に入ると三内丸山遺跡の標識。こっちこっちと誘導されて工事現場。「このへんに発掘現場ありますか？」「まっすぐ左すぐわかる。」いってみると飯場に女人夫さんがいっぱい。「資料見せてもらえますか」「向こうの２階に先生いるから」「先生現場みてよろしいか」「どうぞどうぞ」　相馬信吉氏
５０歳。青森県埋蔵文化財調査センターの先生。遺跡に情熱を込めて子供のようにいろいろ教えてくれた。「さわってもいいよ」まだ土の中に半分埋まっている土器に触れた。俺が作る陶器のミニ花器のような形。暖かい。この時東北旧石器研究所の捏造おじさんの話も出た。相馬さん「あの人に異を唱える雰囲気が無かったみたい」一月経って捏造の数が増えていくのが新聞紙上を賑わしている。図書館から借りた本にも日本初の原人の話（捏造）が華やかに載っている。なんちゅうやつだ！

30 日：秋田の琴丘：道の駅で目覚めた。今日は鳥海山に登るぞと食事や運動を早々に済ませて出発。地図を見て登山口の見当をつけて走る。山の師匠の澤山さんに「登山口は何処」とメールをすれども返事が来ない。12：30 探し回ってやっと登山口。しかもラッキーな事にここはもう五合目。標識があってコースタイムは登り 3 時間。朝から降ったりやんだりのどんより曇り。麓で買ったおにぎり、トマト、ソーセージの入ったサンドイッチ、水筒いっぱいのお茶、雨具をデイバッグに詰める。１時間程登と、なかなかいい感じ。樹林帯を過ぎ、石のガレ場、２時間半で頂上着。曇り空で、雲の間から火口らしきところや、もうひとつの頂上らしき峰がちょっとみえる。澤山さんに「鳥海山てっぺん」とメールする。３時には絶対引き返すと決めていたので慌てて下山。旅行中の山、大山しかり,白山しかり、何時も忙しく登って降りるだけ。もう３０分で駐車場の車まで帰り着くという所でザーザー降りの雨。ずぶ濡れになった身体を拭いて着替えをし、食事をしながら一杯呑む。この駐車場、人も居ないし照明も無い。だんだん暗くなってくると雨の中ぼんやりと空が見える。ますます雨の降りがひどくなる。熊に注意の看板があった。北海道も内地も俺の行くところにいつもこの看板があるな。ここで汲んだ湧き水で沸かしたお茶旨い。安物の茶も水だな!夜澤山さんより鳥海山登山口の詳しいメールが入った。携帯電話のメールこちらが移動していたら、メールもうろうろするらしい。

9 月 1 日：二日間仙台市、竹内朋司・敬子宅に泊めてもらう。電話をすると「ゆっくりしいな～、泊まっていきいな～」と。あまえることにして 20 何年ぶりの再開。雨模様が抜けきらない今日は薄ら寒い。「今年やっと冷房機買ったけどこの夏使ったのは３回だけ」竹内さんがいうように今年の夏は関東以北、曇り空の冷夏だそうだ。大阪は相変わらずの亜熱帯らしい。次の朝、弁当を作ってもらって松島へ。七ヶ浜の塩釜港側で画を広げて水彩画何枚か、久しぶりの晴れ。この辺り狭くて人が多い。やっと探した波止場は松島の綺麗な島々は見えない。釣り人やら、船やらを描いた。美味しい物をごちそうになって、あくる日も弁当持たせてくれた。
　磐梯山に登るのが鳥海山の次の目標。いざ磐梯山へ。朝１０時ごろ安達太良山（あたたら）の側、磐梯を探しているうちに昼過ぎ。登り始めたのが１時過ぎ、しかも道を間違えて３０分以上のロス。やっと頂上直下の尾根道にさしかかった頃にはもう３時。てっぺんまで１時間少しはかかりそう。無理は止めて引き返す事に。ここは火山の山、硫黄の臭いがプンと来る。痩せこけた子猫ぐらいのウサギが、ぴょこぴょこ俺のほうに向かって飛んできて手前で急ブレーキ、きょとんとしてＵターン。熊よけの鈴をじゃらじゃら鳴らしていたのを聞きに来たのかな。残念なのは安達太良山なら登れたかなと。安達太良山の麓は午前中通過した。なかなかいい感じの山だった。夜は国道沿いのパーキングで寝る。次の日は福永普男宅に泊めてもらう。飯能市。西武池袋線で池袋まで５０分。もっと田舎かと思っていたが首都圏。粘土で裸婦を造っている。銅の鋳造も自分でやっている。昔は酒飲みだったのにビールを少ししか飲まない。すき焼きをご馳走になった。今回の旅ずっと都会は避けてきたが、彼に会うため都会に入って、車の進まない

事。道は車だらけ，人だらけ、家だらけ。福永氏の家に行くのも、そこから田舎に脱出するのも一日がかり。都会は電車に限るな。夕方、八ヶ岳麓、美濃戸口。駐車場は泊まれそうも無いので、少し進んで河原で泊まる事に。５時ごろ着いて、食事と酒と明日の登山の用意。ここも人っ子一人居ない。渓流の音が煩いぐらい。やはり曇り空。いまにも降りそう。もちろん明かりも無い。雨が無かったら明日は赤岳。

5 日：朝５時には出発して夕方４時ごろまでにはここに帰ってきて、と計画していたが朝小雨が降っている。外に出て食事の用意をしながらどうするかなと思っている時ヘッドライト煌々と何台かの自動車。普通の車じゃないぞと目を凝らして見ると、ちょっと大きめのジープ５．６台。それを見て俺も元気が出て 5：15 出発。自衛隊のヤングが１００人程も居て、彼等とあい前後して 9：00 に赤岳山頂。５５分歩いて５分休憩の１時間ピッチ。我ながら身体は軽く快適。鳥海、磐梯とは高さが違うと張りきったが９時に山頂に着いてしまうとは。又澤山さんにてっぺんメール。自衛隊のヤングのあんちゃん達、今日はハイキング気分なのかあまり緊張感が無い。この山、今年の冬２月に来た時には麓で昼間の気温-13 度だった。今日も旅行中ということで、慌てて降り車にたどり着いたのが 1：30 ごろ。今回の山も晴れ間が見えたのはちょっとだけ。雨に降られないだけでもましか。食事をして後の川の水で身体を拭いて少しでも大阪に近づこうと出発。初めてセルフのガソリンスタンドに入った。アメリカ行きのためには体験しておかなければと、いきなり蓋を開けガソリンを入れようとすると係員が飛んできて、「先にこちらにお金を入れて、ボタンを押して」と教えてくれた。一月車に乗っているとガソリンスタンドへ頻繁に入る。北海道から大阪まで,値段もまちまち。一番安かったのが札幌の 91 円。高いのは北海道北部稚内辺りの 108 円ぐらいかな。都会だからと安い店ばかりではない。値段ばかり気にしていると前方不注意で危ない。以前はガソリンの値段など気にしないでスタンドに入っていたけど、今は自転車に乗っていても「ここ高いな」なんて。高遠を通って地図を見ていると中央アルプスを横切る道がある。へえ～こんな所に本当に道が在るのかと人に聞くと権兵衛峠という。警官が居たので「どういくの」聞くと教えてくれたが「気をつけなさい」「ありがとうございます」恐る恐る近づいたが少し狭いだけで普通の道。ただ下でトンネル工事、これが出来ると便利になるような残念なような。国道沿い木曽福島の駅の道で宿泊。一晩中車が走っているような繁華な国道。最後の夜、木曽駒ヶ岳を見ながら乾杯。国道に小型車をいっぱい積んだトレーラー、小型車の数なんと 7 台。

6 日：さあ大阪へと出発。まっすぐ走ればいいものを 70 号線を白川まで。これが又楽しい道。日本昔話のような山と木と家。いつか又来て絵を描きたい。昨日の権兵衛峠、標高 1500 メーターとかなかなか良い道だったが、ここも高さも高いが景色も良い。朝の７時に出て着いたのが夜の７時。今日は１２時間のドライブ。車の走行距離計 660 を指しているが　2660 キロだか、3660 キロだか。